

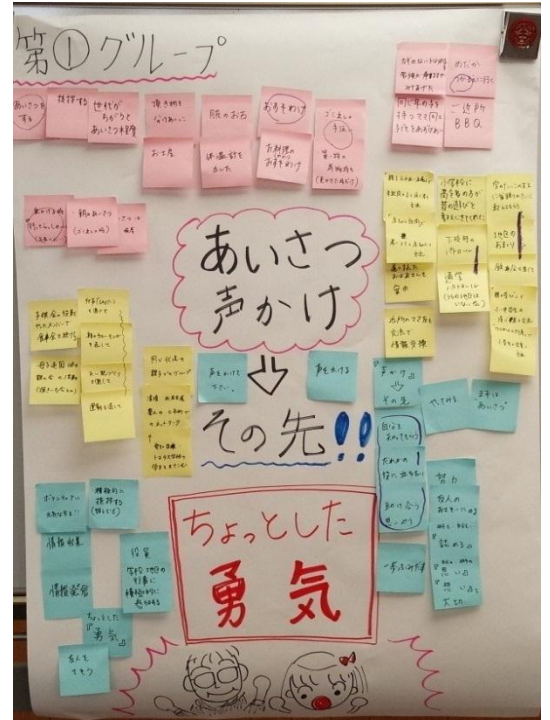
健康づくりをみんなで考える会(市民ワークショップ)

【2日目】10月23日 グループワーク

参加者 24人+健康推進課職員7人+保健所2人 計33人

1グループ キーワード「あいさつ・声かけ」その先の「ちょっとした勇氣」

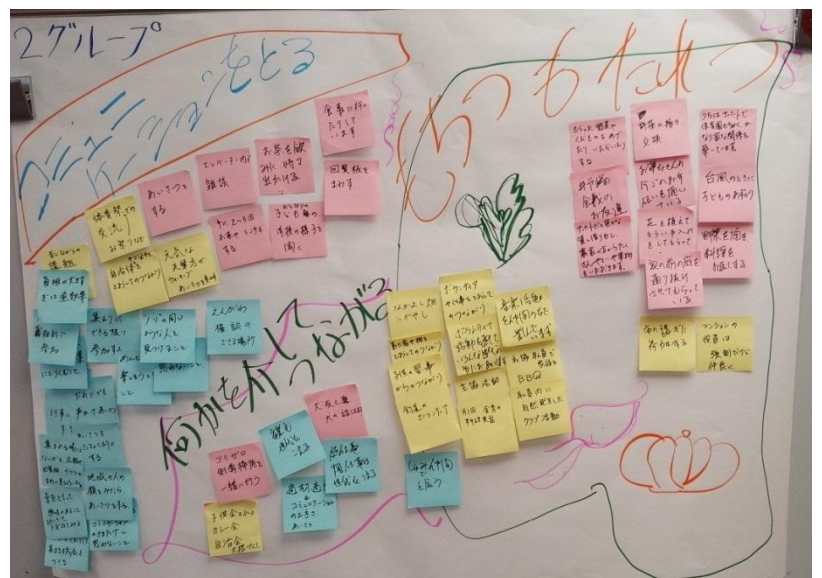
- ・近所の人とはあいさつする程度。世代が違くと関わりが少ない。
- ・障がいの子がいると、児童館などにはとても行けない。
⇒ふわふわさんとしては、ぜひ来てほしいと思っている。
今まで児童館や子育て支援センターにはちらしを配りに行っていたが、たんぼぼには行ったことがなかった。こちらから出向いて宣伝したいと思った。
- ・ボランティアをするなど、健康な人とそうでない人が助け合える町づくりが必要だと思う。
- ・あいさつをしよう、声をかけようといつも良く言われるけど、それだけではなく、その先一步踏み出す勇氣が必要だと思う。待っているだけではなく、自分からも情報を求めて行動する。勇氣を出して一度行ってみるなど。



2グループ

○ つながるためには・・・ キーワード「もちつもたれつ」でコミュニケーション

- ・“わたしのもの”といった見えない境界線をつくってしまうと、人との壁ができてしまう。
わたし自身が、直接つながることが難しければ、子どもやペットの犬などの第3者を介してつながっていくこともできる。そうすることで、世代間を超えたつながりをもつことができる。
- ・人は、ひとりでは生きてはいけない、ひとりでは何もできない。常日頃から地域でのあいさつや行事ごとなどに参加しコミュニケーションをとることで、もちつもたれつに関係をもつこと、お互いが楽しむことが大切。



3グループ

キーワード「継続」



・近所の人とは挨拶する程度。親しい人とは野菜を分けたりもらったりする。まずはきっかけとして挨拶を継続するのが大事。

・町内で全年齢対象のボーリング大会や盆踊り等がある。世代を超えて関りがもてる。

自治会のイベントやお祭りに参加すると小さいお子さんのいる家庭の方にも出会える。町内会の役員になるとたくさんの人と出会い、様々な役割を通して人とつながりがも

てる。

- ・困ったときはメール等で聞く。
- ・関係を築けていると家族ぐるみでの付き合いとなり、何でも話し、こどもの送り迎えも相談できる。
- ・車の通る数が少ない道で井戸端会議、自宅のベランダからお隣へ声をかけることもある。何かあったときはすぐに声をかけ、助け合える。
- ・つながるために、挨拶をする、興味のあることや地域の行事への参加することで絆もうまれる。それを継続することが大事。

4グループ

キーワード「巡りん体操と宮重大根活用で、交流を活発に」



・宮重大根や巡りん体操などの媒体活用で世代間や団体の交流をしよう。

・子供会や地域サロンなど、世代を超えた交流のあるところへ行こう。

・媒体となる学校行事やボランティア、地域の特産等の発掘をしよう。

・身近な人から声掛け、あいさつをしよう。

・行事を楽しもう。

